



平成30年2月2日

各 位

会 社 名 ダブル・スコープ株式会社
代表者名 代表取締役社長 崔 元 根
(コード番号 6619 東証第一部)
問合せ先 取締役戦略企画本部長
大内秀雄
(TEL 03 - 5436 - 7155)

業績予想の修正に関するお知らせ

最近の業績動向を踏まえ、平成29年8月9日付で公表しました業績予想を下記の通り修正いたしましたのでお知らせいたします。

記

●業績予想の修正について

平成29年12月期通期連結業績予想数値の修正(平成29年1月1日～平成29年12月31日)

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に帰属 する当期純利益	1株当たり 当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想(A)	10,000	1,000	800	600	19.30
今回修正予想(B)	9,517	274	△108	△119	△3.85
増減額(B-A)	△482	△725	△908	△719	
増減率(%)	△4.8	△72.5	-	-	
(ご参考)前期実績 (平成28年12月期)	9,048	2,370	2,479	1,945	65.28

【修正の理由】

平成29年12月期下期の売上高においては、中国EV用途市場での助成金の対象となる電池スペック変更に伴う需要減少とスマートフォン向け需要減少により、修正業績予想比約5億円減少しました。

また、営業利益においては、当社製造子会社W-SCOPE KOREA(以下、WSKという)の製造環境改善費用、平成30年下期より量産が加速する見通しとなっているEV・PHEV用途電池向けの大量のサンプル出荷、当第3四半期より設置の大型ライン8号・9号の生産立ち上げに係る変動費の増加等が年間を通して発生しており、第4四半期は第3四半期に比べて回復したものの、これら3つの要因により下期の営業利益は修正業績予想比で大幅に減少しました。

第1に、WSKにて稼働中の第1～7号生産ラインはこれまで中国自動車関連市場及びその他地域の民生用途を中心に量産出荷を続けてまいりましたが、平成30年以降の欧米自動車市場向け販売の大幅な伸びを見込む状況となり、品質管理体制の強化とともに製造工程各所において改善工事を実施したことによるものです。これに伴う生産性の一時的な低下等により修正業績予想比4億円弱の営業利益低下となりました。

第2に、リチウムイオン電池市場では平成30年下期からEV、PHEV用電池の量産が加速する見通しとなっており、電池メーカー各社も主要部材の安定供給確保が卑近の課題となっております。このような市場環境の中、当社でも新規顧客を含めた自動車用電池設計のためのサンプル要求に継続して対応をしていることによるものです。これらサンプル対応に係る変動費が修正業績予想比約1億円の増加となりました。

第3に、8月から試運転に入った大型新規ライン(第8号生産ライン)においては順調に9月から一部製品の出荷を開始しましたが、生産条件設定及び製品品質安定性の確認のための生産に費やす費用が大きく、更に11月から試運転を開始した大型生産ライン(第9号生産ライン)と合わせ修正業績予想比約2億円の超過費用が発生したことによるものです。

また、上記要因の他に、平成29年12月期末日レートが対ドルに対しウォン高に推移したことに伴い、製造子会社保有米ドル建て債権等の為替評価差損が修正業績予想比約2億円発生し、経常損失の見込みとなりました。

以上の要因から、平成29年8月9日付の公表数値を修正致します。

【業績予想に関する留意事項】

業績予想につきましては、現時点において入手可能な情報に基づき作成したものであり、実際の業績は、今後様々な要因によって予想値と異なる場合があります。

以 上